

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2640 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2009-2010

地区方針 「歴史に学び変革と進歩を」
IMテーマ 「縁づくり」

3月は「識字率向上月間」です

CONTENTS

1. RI 会長メッセージ	1
2. ガバナー日誌	2~6
3. 中等教育の本道は私学教育	7~8
4. 識字率向上(教育支援活動)によせて	9~10
5. 1月の寄付金傾向	11
6. 新入会員紹介	12~13
7. 訃報	14
8. ポールハリスフェロー・米山功労者(1月分)	15~16
9. 「ロータリーの友」地区だより	17~18
10. ハイライトよねやま	19
11. ロータリー文庫通信	20
12. 「友」インターネット速報	21
13. 出席報告(2009年1月)	22
14. 3月の行事予定	23



RI 会長
ジョン・ケニー
(スコットランド)



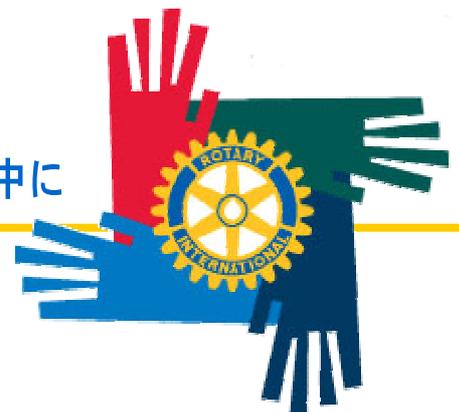
2640 地区ガバナー
村上 有司
(田辺RC)

NO.9 3

ロータリーの未来はあなたの手の中に

国際ロータリー第2640地区ガバナー事務所

〒640-8215 和歌山市橋丁2-3 サイバーリンクスN-4ビル2F
TEL. 073-428-2640 FAX. 073-428-2643
E-mail: info@rid2640g.org
URL: <http://www.rid2640g.org/murakami/>



THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS



親愛なる同僚ロータリアンの皆さん、

6月20～23日、カナダ・ケベック州モントリオールで開催される私たちの国際大会の準備は着々と進んでいます。そして、登録料の割引が適用される期限の3月31日はすぐそこまで迫っています。

友人と再会し新しい友人と出会う

興味のある講演者、わくわくするエンターテインメント、魅力的な都市を訪ねるチャンスなど、ロータリーの国際大会に参加する理由はいろいろ考えられます。こういった誘引も説得力があるでしょうが、私が1984年に初めて国際大会に参加してから、ほとんどすべての大会に参加しているのは、それらのためではありません。私が年に1度のこの行事を楽しみにしている主な理由は、ロータリーを通じて得た友人と再会したり、多くの新しい友人に出会う機会を与えてくれるからです。いろいろな意味で、私たちの国際大会はロータリーで最高のものです。ここに集うロータリアンたちは真剣に奉仕活動について討議している一方で、気心の知れた仲間との親睦を楽しみます。

私たちを鼓舞する講演

ベストセラー『ここに学校をつくろう（原題 Three Cups of Tea）』の著者、グレッグ・モーテンソン、ハイパー・インターナショナルCEO（最高経営責任者）のジョー・ラック、それに、カントリーミュージック歌手のドリー・パートンの（彼女が本職以外に大きな関心を示している）子どもたちの識字率向上や彼女が支援する「イマジネーション・ライブラリ」などについての講演が、私たちを鼓舞することはいうまでもありません。さらに私たちはロータリーや私たちのロータリー財団の現況について、予定されているさまざまなワークショップを通じて多くのことを学ぶことでしょう。これらのイベントの合間に、友愛の家でコーヒーを飲みながら、あるいはモントリオールの名高いレストランでディナーをとっているうちに、私たちは新しいロータリーの親睦を築き上げることができます。

「国際大会に出席してみるまでは、ロータリーの国際性を本当に理解することはできない」といわれてきました。この6月のモントリオールには100を超える国々からロータリアンを迎えることになるでしょう。そこでは何十という異なる言語が話されますが、単語、笑顔、笑い声で文化や言語の違いを橋渡しできるよう、最善を尽くしてコミュニケーションを図りたいと皆が考えていることを知っています。

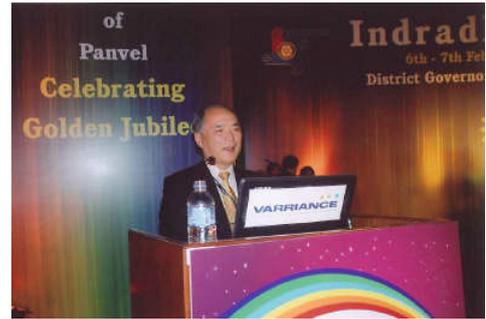
未来に向かっての計画を立てる

国際大会は今年度の業績を祝うと同時に、未来に向かっての計画を立てるときでもあります。ロータリーでは、私たちが成し遂げてきたすべてを見て「これでもう十分」ということはありません。それどころか、過去の成功を、さらに多くのことを行う踏み台にするのです。私は、皆さん方にモントリオールに集い、この機会を利用して新しい奉仕の仲間を見つけたり、一歩進んだプロジェクトのアイデアを得たりしながら、ロータリーへの熱意をいっそう新たにされるようお勧めします。やり遂げなければならない多くのことが、今年度、そして次年度にも残されているのです。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あります。

“インド西部地方”訪問記 (ムンバイ・プネ)

ガバナー 村 上 有 司

1、私ら夫妻と地区内メンバー（山本正明・大森豊・中野一郎・尾羽根伸幸）は、2月5日午前8時、関西空港国際線Cカウンター前に集った。インド・ムンバイ（ボンベイ）に向かうCX503に乗り込むためである。今回のインド訪問には、2つの大きな目的がある。1つはポリオ・ワクチン投与であり、もう1つは当地区の4RC（太子・高石・羽曳野・富田林南）と第3131地区のプネ北RCとの間で実施された、WCS（識字率向上）の贈呈式に立ち合うことである。



2、午前10時定刻に関空を出た乗機は、香港で中継して10時間のフライトの後、インド西部の大都市ムンバイ（ボンベイ）に18時30分（現地時間）着いた。先発していた太子RCのWCS委員長大村充君が出迎えてくれた。インドの人口は約12億人といわれているが、ムンバイは、首都ニューデリーを超えて約2000万人の商業都市である。空港前にタクシーが多く待機しているが、予約がないと乗車出来ない。早々に風習の違いを感じていると、大村君の友達で日本に長く居たことがあるアショカさんが、タクシーを予約して乗り込むよ



う指示してきた。タクシーといっても、日本では30～40年前に見かけた小さな古い車である。大学卒の初任月給が3万円位というから、物価は日本の10分の1位である。しかし、石油系は高価であるため、タクシーはプロパン車が多い。車が小さい上、プロパンボンベを積んでいるので荷物をのせる場所がなく、屋根の上にアンクルを組んで、その上に

荷物をのせるようになっている。20キログラムを超える旅行鞆を幾つものせて、細い紐で簡単に留めてくれるが、大丈夫かといささか心配となる。乗客3人しか乗れない小さな車が走り出して、もっともっと驚くべきことが続いた。街に出ると車と人の洪水であるが、タクシーは車間距離をほとんどとらず勢いよく走行して行く。交差点には信号はなく、突然車が差し込んでくる。少しでも空間が出来ると、警笛を鳴らして右に左にコースを変えて割り込

むので、乗っていて生きた心地がしない。40分余りでホテルに着いた時には、肩が凝り手の中は脂汗でべっとりになっていた。この時だけではなく、インド旅行中激しく鳴らされる警笛には驚いた。日本ならきつと喧嘩になると思われる光景であるが、誰も全く気にする気配はない。横の車や前方の車に対する“あいさつ”位に考えているらしい。大型車の後方に、“Keep Hone, please”と書いてあるのを見て、“所変われば品変わる”のだとつくづく思った。

- 3、翌朝8時にホテルを出て、用意されていた小型バスで“ムンバイ”市内を観光した。大村君の友人アショカさんが、同乗して案内役をかって出てくれた。ムンバイはインド最大の都市で2000万人位が住んでいること、インドには12億位の人が住んでいるといわれているが、戸籍制度が確立していないのでそれ以上の人がいるはずとのこと、2年後には中国を抜き世界一になること等詳しく説明してくれた。



車窓に広がる街並みを見ていると、どこも人と古い車で埋めつくされ、アジア一番のスラム街が延々と続く。しばらくすると、ムンバイ湾をまたぎ空港へ通じる長い大きな橋にかかった。瀬戸大橋の様な巨大橋で今も建設が続いている。この光景を見ていると、インドの経済力・近代化を痛感する。

今でもカースト制度が存在し、身分差別が厳しく、貧富の差も大きい。1日100円以内で暮らしている人々が多くいるかと思えば、1ヶ月1000万～2000万円もの収入を得ている人もいる。インドは、遅れている部分と進んでいる部分が混在する不思議な国である。

インドの通貨はルピーで、1ルピー=1.96円位である。円もドルも直接使えないので、前もって両替をしておく必要がある。特に田舎の方に行くと、両替の出来る所がないので注意する必要がある。食べ物は安く、少々美味しい物を食べても3000円位ですむ。

この日は、ムンバイから南へ170kmあるプネの街へ向かうことになっている。途中、ロナバラという所で開かれている“第3131地区大会”に招待を受けているので、午後3時30分迄に会場に着く必要がある。少し早めであったが、昼食を市内のインド式レストランで済ませた。ムンバイの雑踏を抜けると、“箱根の剣”に近い急峻な坂道が長く続く。道路は片側3車線で整備されているが、峠越えをする古い大型トラックが荷物を満載して喘ぎながら先行する。その他の車も多いのでなかなか先に出られない。



それでも、予定より少し早く地区大会の会場に着き、受付で諸手続を済ましてホールに案内された。地区大会に日本の来賓を迎えるのは初めてとのことで、最高の待遇を受けた。実行委員長とガバナーがあいさつに来て、名刺の交換と固い握手で縁づくりが出来た。会場は1500～1600人位収容可能と思われたが、80%位の人が集っていた。

ガバナーが舞台にのぼって、ワイヤレスマイクを首にかけて招待者の案内やインタビューを直接していたのには驚いた。日本の地区大会と比べリラックスした感じであったが、時間感覚はほとんどなく1時間近く遅れてプログラムは進行していった。私らが舞台に呼び上げられたのは、予定より1時間半遅れの午後5時過ぎであった。一言あいさつするよう促されたので、「第3131地区のプネ北RCとの間で、識字率向上のWCSが出来たことに感謝する」と述べたところ、ガバナーは、「外に何かしたいことがあるか」と聞いてきた。「新しいことは考えていないが、このWCS事業が継続して、両地区の縁が強固になることを祈っている」と返事をした。記念品をたくさんくれたので、用意していた扇子をお土産に渡した。地区大会への参加はサプライズであるが、貴重な体験ができた。この後場所を変えて祝宴が開かれるとのことであったが、私と妻は少々疲れ気味であったので、若い連中だけを残し、更に2時間余りをかけてプネ市内のホテルへ先行した。

4、3日目は、ポリオ・ワクチン投与の日である。早朝5時に起き、6時に小型バスでホテルを出発した。30分程度でその日の集結場所に着いたが、未だうす暗かった。既に地元ロータリーの世話役の人々が来ていて、冷蔵ボックスに入ったワクチンや黄色いポリオ用帽子や子供達に渡す品々を準備していた。ムンバイでは2ヶ月に一回一斉投与を実施しているようであるが、それ以外にも毎日曜日の早朝や夕方に、各地でポリオ・ワクチンの投与が行われているらしい。早朝や夕方を選ぶのは、それ以外の時間では親達が仕事に出ていて、子供達を連れて来れないからである。

しばらく待機をしていると、地元ロータリアンが多く集ってきた。3人一組となって、指定場所へ車で移動することになった。私が行った場所は、大きな道路沿いにあるトタンと古い木で出来た掘立小屋が並ぶスラム集落である。部落の入口の一隅に、“ポリオ・ワクチン投与”と書かれた黄色いフラッグを張りつけていると、子供達が興味深そうに集って来た。子供達の多くは素足でうす汚れた姿であったが、どの子供達も目は大きく鼻は高くほりの深い美形である。「これからポ



リオ・ワクチンの投与をする」と係の人が告げると、子供達は並んで口を開けてきた。初めて見る私達をこわがって、「逃げる」のかと思っていただけに意外であった。

冷蔵ボックスからポリオ・ワクチンの入った小さなガラス容器を取り出し、その先端にスポイド器具を取りつけ、子供の口にポリオ・ワクチン2滴投与する。側にいた妻とボランティアの若い女性が、子供達の小指に投与の終わったしるしをマジックでつけていく。



点滴対象者は4～5才位迄の子供であるが、中には生後間もない赤ちゃんもいる。寝ている子供の口をその母親と二人で開けようとする、目をぱちちと開いてこちらを見ている。小さな口に点滴を入れようとするが、初めての経験でうまくいかない。「もう少し、うまく入れてよ」とでも言いたそうに首をふる。その仕草のあどけなさにこちら

らもつい笑いがこみ上げてくる。少し大きな子供になると、点滴の後にくれる鉛筆や笛がほしくて2～3度列に並ぶ。係の女性が、小指につけたマークを見て注意を与える。1周1キロ程の集落を回り終わって、「今日は168人に投与出来ました」と統計係が教えてくれた。

そろそろワクチンも切れてきたので、駐車場に引き返すことになり集落の入口迄来た時、少し大きめの男の子とおじいさんらしい人が玄関前に座っているのが見えた。男の子の右足には包帯がまかれ、全く動こうとしない。同行の地元ロータリアンが、何かを話していたが手招きしてワクチンを投与するように指示してきた。近寄ってワクチンを口に入れようとする、



男の子は首を振って拒否する。再度試みようとする、一層強硬に拒否した。それを見ていたおじいさんが、「やめてやってくれ」というような態度を示した。この時、「この男の子はひょっとすると既にポリオに罹患しているのでは」と、私は不安におそわれた。足の包帯、動こうとしない態度、顔色もよくない。私は医者ではないので見当はずれかもしれないが、「もう少し早くこの地を訪ね、この男の子の口に2滴のワクチンを流し込んでやっていたら・・・」等との思いが頭の中を駆けめぐり、何故か涙が流れて仕方がなかった。私はこの貧困の集落で3時間余をかけて、168人の幼児の口中にポリオ・ワクチンを投与してやる事が出来た。その子供達と私らは、これ迄何の関係もない通りがかりの出会いである。おそらくこの子供達は、日本から来た私達のことを全く知らずに過ごすだろう。しかし、私達のポリオ・ワクチン2滴投与という一瞬の行動を受け入れた幼児達に対しては、手足の機能を奪い、人間の尊厳性の大半を奪ってしまう病魔から解放してやれたことだけは間違いない。

感動と感激を感じる幸せな一日であった。その一方で、私の点滴投与を拒否したあの包帯の男の子の行く末を考えると、少し心にかかる一日でもあった。

5、4日目は、プネ市内から更に5時間先の田舎村を目指し、朝7時に小型バスでホテルを出発した。今回の旅の目的の一つであるWCSの贈呈式に参加するためである。バスの運転手は、今日で4日間バスの車中で夜を過ごしていると話していた。出発から1時間程過ぎた頃、プネ北ロータリーのメンバー20人程を乗せた大型バスが近寄ってきた。途中朝食をとるため、ドライブインに立ち寄った処、バスから降りてきた半分近くが女性であった。プネ北ロータリーの中に女性ばかりの別のクラブがあり、そのメンバーとのことである。土産物をくれたり、写真撮影を求めたり、たいへん人懐っこい女性達ですっかり仲良しになった。

朝食もそこそこに贈呈式の会場へ向かったが、途中から曲がりくねった急坂となり眼下に段々畑が見えた。日本の田園風景に似た田舎道をバスは登っていく。4時間程走って、やっと贈呈式会場に着くと、地域の代表者らが我々の到着を待っていた。贈呈式の舞台が作られ、「インドの村にロータリーの光を！識字率向上を目指して」と書かれた



幕が張られていた。その一段下にゴザが敷かれ、50人程の地元の人々が座っていた。プネ北ロータリーのクマールWCS委員長が、経過と日本から来た我々を紹介してくれた。今回のWCSは、クマールさんと大村君の二人が中心となって企画・実現してくれたものであるが、促されて私がいさつを行った。その後、両国のロータリアンが交互に地元の人々一人一人に、「ポータブルLEDソーラ式パネル付ライト」を一個ずつ贈呈した。この器械は、日中2時間程太陽に照らしていると、夜間3時間位使用出来るというすぐれ物である。今もこの部落の一部には電気がきていないので、日が暮れると寝るより仕方がない。“蛍の光、窓の雪”という歌詞は、日本では既に歴史的価値となったが、この村の人々にとっては、この小さな贈り物が大きな世界への幕開けとなるかもしれない。

世界中には9億を超える人々が読み・書き、計算が出来ずにいる。経済的・文化的な発展の機会から遠く取り残され、人並みの幸せすら享受出来ずにいる。“識字率の向上”は、全ての進歩・発展の出発点である。国際ロータリーが、繰り返し“識字率向上”を強調事項として取り上げ、毎年3月を特別月間としている所以である。

「中等教育の本道は私学教育」



パストガバナー 平岡正巳

中等教育の本道は私学教育である。未成年の子どもの教育権は、国にあるのではないし、況して地方行政団体にあるのではなく、学校にあるのでもない。民法第818条及び第820条に明示されているように、未成年の子どもの親権を行使する親にある。学校は保護者の子どもの教育の負託を受けているのだが、私学はその点について非常に明白である。

私学はそれぞれの各学園の設置者の教育理念・教育方針に基づいて特色教育が行われている。その異なる特色教育に保護者は子どもの教育を負託する。公立の設置者である教育委員会は公立の各学校は普遍的な教育理念で設置されているので、根本の教育理念は普遍的であり、学校の特色が無いのが特色であるといえる。勿論、普遍教育を好む保護者も少なからず存在する。

ここで問題になるのは、公私間に於ける生徒納付金の格差である。橋下大阪府知事は、私学は付加教育を行っているので、高いのは当たり前であると言われるが公私の授業料格差が4～5倍になると、私学は行きたくても行けない学校になる。憲法の精神に大きく乖離することになる。憲法第26条では「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。」と明記されている。

高校生一人当りの経常的な経費は約百万円掛る。公立の場合は、その経費の86%、私学には33%、公費が支出されている。この公費の支出の差が学納金とリンクし、公私間の納付金格差が生じている。

近年、少子化が進行するなかで、保護者や生徒の関心や興味に対応した多様な教育を行うことが課題となってきた。平成6年の中央教育審議会は、「これまでのように均質の教育を全国的に提供するだけでなく、各学校が個別性や独自性を出して特色のある教育を行うことが求められ、すべての学校が特色を生かし、創意工夫を凝らした教育活動を展開することが不可欠である」との答申をしている。他方、教育改革国民会議は平成12年に「教育を変える17の提案」のなかで、「教師の意欲や努力が報いられ、地域の信頼に応える学校づくり、分かり易い効果的な授業」等を提案し、これまでの公立

学校には見られない新しい動向である。正に、公立の私学化である。

昨年、大阪府の教育委員会は「府立高校のさらなる特色づくり」なる特色づくり推進事業を発表された。これによると、旧9学区のトップ校を中心に10校の進学指導特色校を定め、それぞれの学校に文理科の専門学科を設置し、平成23年度より実施する。

このように公立も特色教育に益々力を入れてくると思われるが、もともと特色教育は私学が元祖であり、私学教育の柱である。大阪の公立は、府立が148校、市立が31校あるが、府及び3市の教育委員が束ねている。いくら教育委員会が巨大で強力な組織でも、この様な多数の学校の末端迄、行き届いた教育は施し難いのではないかと思う。私学は84法人によって95校が設立されている。それぞれの設立者の教育理念は一つとして同じ理念は無く、多様性に富んだ教育を展開している。公立が特色教育化（私学化）を進行させている最中、その老舗である私学は、それぞれ学園の特色に、より一層研ぎをかけることが肝要である。

中等教育の本道は私学教育であると、冒頭述べましたが、公立の私学化が益々進展していくと、同じ土俵に立った場合、保護者の納付金の大きな格差は致命的なハードルになる。我々私学が自覚しなければならないことは、私学は保護者の子女教育の負託がなければ、存在価値も無いし、存在すら無くなる。卑近な例になるかも知れないが、いくら高邁な教育方針を掲げ、立派な施設を準備しても、生徒数が“0”であれば教育は勿論、運営すら不可能である。その意味で、私は「私学は保護者立である」と言って憚らない。

従って私学は、保護者の教育の負託の実現のために最善を尽すと共に、更に、保護者の子女教育の熱い願いを各学園の教育の中に実現していくことが私学の使命であり、確固たる存在価値が生ずると確信している。

民主党の新政権は公立の無償化が打ち出され、私学は新たな難題と遭遇している。何れにしても、日本の将来を考えると、私学教育の振興は不可欠であり、私学の振興に全力で取組む所存です。



識字率向上(教育支援活動)によせて



中村 幸吉

国際ロータリーは、クラブ・プログラムとして、月ごとに、次のようなバランスの取れた奉仕プログラムの強調事項を指定しています。

- 1月・ロータリー理解推進月間
- 2月・世界理解月間
- そして
- 3月・識字率向上月間

(以降は省略)

これらはクラブと地区が奉仕活動を実施する際の枠組みでもあります。且つ、これはクラブだけではなく、ロータリアンひとりひとりがロータリーの活動に参加することを強調する為のものでもあります。

国際ロータリーは、読み書きの出来ない非識字こそ、貧困を始めとする諸悪の根源であると考え、1997年の国際ロータリーの理事会において7月(現在は3月)を識字率向上月間に指定しました。歴代の国際ロータリーの会長は、識字率向上の為に世界のロータリアンに絶大なる支援を要請されております。識字率向上運動は、国際ロータリーの重要なプログラムなのです。

現在の文明社会においては、文字文化から離れて生活することは、社会から置き去りにされることを意味します。非識字者は正当な職に就けず、それに起因する貧困は、その子供達の就学の機会を奪い、発展途上国において、非識字と貧困は悲惨な悪循環を生み出しています。

世界には、約10億人の非識字者がいると言われております。これは15才以上の大人の4分の1に当たります。そしてその4分の3はアジア人であると言われ、また、非識字者の3分の2は女性なのです。

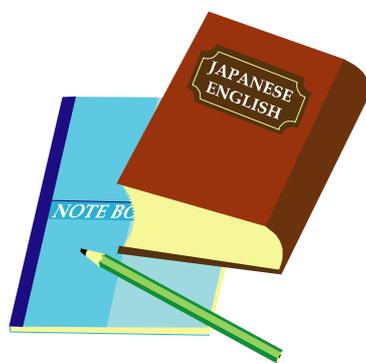
また、1億人以上の就学年齢に達している児童が学校に行けません。ユネスコや我々の努力で改善の方向に向かっておりますが、さらなる努力が必要です。

貧しいところに限って、地震の災害もあります。2週間程前に起こりましたハイチの地震も心配です。

何とぞ、識字プロジェクトの重要性を理解していただき、国際ロータリーの識字率向上運動にご協力いただける様お願い申し上げます。

さて、日本では、識字率向上運動への取り組みが、もう一つ、盛り上がらない傾向がありますが、ROTARY WORD（2010年1月・JA・第16巻・第3号）のページ5に紹介されているドイツの識字率向上運動の例は、識字というよりは教育支援活動とも言うべきもので、日本でも、このような方向の識字率向上運動であれば、割合に取り組み易いのではないかと！

この活動の月間に当たって、皆様の喚起を呼びかけるものです。



1月の寄付金傾向



1月分合計額 182,939,264円
累計額 982,902,433円 (前年同期比 14.46%減)

参考 前年度1月分合計額：199,502,122円、累計額：1,149,080,587円

普通寄付金

1月当月 147,506,900円
1月末累計 372,421,690円
(前年度比 1.93%減)
(予算達成率 86.2%)

普通寄付金下期分は1,864クラブ(81%)から納入されました。なお、上下期ともご送金されていないクラブは87クラブあります。是非とも米山奨学事業へのご理解を深めていただき、奉仕の実践として、普通寄付金をお納めくださいますようお願い申し上げます。

★普通寄付金納入状況・下期分 (納入数/クラブ数)

地区	納入数/クラブ数	納入割合	地区	納入数/クラブ数	納入割合
2500	54/66	82%	2610	48/66	73%
2510	57/73	78%	2620	58/80	73%
2520	59/84	70%	2630	74/80	93%
2530	59/67	88%	2750	66/82	80%
2540	33/42	79%	2760	72/82	88%
2550	41/50	82%	2780	60/68	88%
2560	44/57	77%	2640	51/72	71%
2570	48/54	89%	2650	81/96	84%
2770	67/81	83%	2660	69/85	81%
2790	72/83	87%	2670	56/74	76%
2800	45/53	85%	2680	65/74	88%
2820	44/60	73%	2690	56/67	84%
2830	27/40	68%	2700	50/59	85%
2840	41/47	87%	2710	62/74	84%
2580	53/70	76%	2720	51/76	67%
2590	完納	100%	2730	46/64	72%
2600	50/57	88%	2740	43/57	75%

合計：納入数 1,864RC

地区ロータリークラブ数 2,302RC

普通寄付納入実績 1月31日現在、当会入金分

特別寄付金

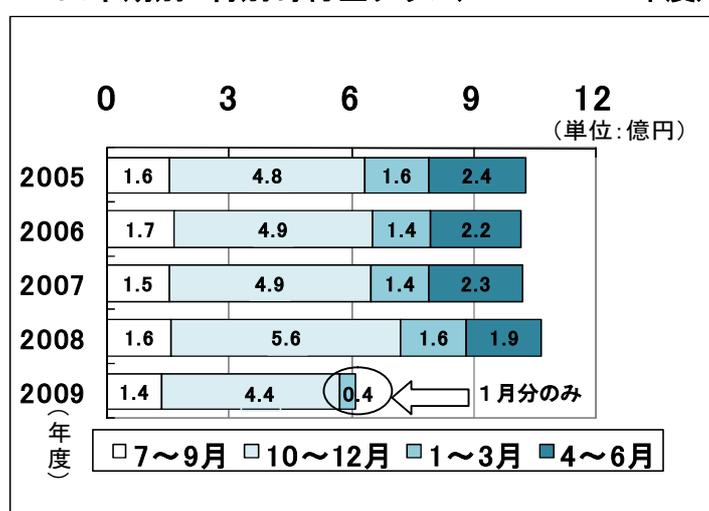
1月当月 35,432,364円
1月末累計 610,480,743円
(前年度比 20.65%減)
(予算達成率 60.0%)

1月は普通寄付金の納入が主だった月間となるため、特別寄付金はそれほど伸びません。前年同期比も約1億6千万円の減少と依然厳しい状態のまま推移しています。今後も引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

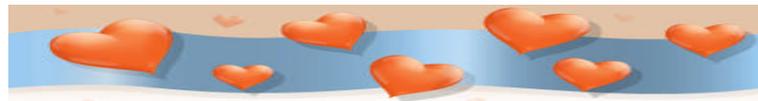
☆ 創立記念寄付クラブ (単位:万円)

地区	クラブ名	金額	地区	クラブ名	金額
2760	豊田中	10	2730	宮崎西	50
2640	河内長野東	10	合計	3クラブ	70

☆ 四半期別 特別寄付金グラフ(2005~2009年度)



このグラフは2005年以降の四半期別特別寄付金収入を示したものです。800名の奨学生を支援するためには、普通寄付金・特別寄付金合わせて約14億5千万円が必要となります。特別寄付金のみで約10億2千万円を予算として立てていましたが、グラフの通り、大変厳しい状況です。当会の奨学事業の意義をロータリアンの皆様にご周知いただくようご協力ください。よろしくお願い申し上げます。



新入会員紹介

新しい友達が増えました
手に手つないで"友の輪"を！！

1 月



おがわ ゆかこ
小川 友香子
所属クラブ：有田2000RC
職業分類：衣料服販売
生年月日：1958年6月21日



ひぐち あきら
樋口 明
所属クラブ：有田2000RC
職業分類：造園業
生年月日：1960年5月28日



やすかわ あつし
安川 敦
所属クラブ：御坊RC
職業分類：製紙
生年月日：1961年1月28日



そうがわ ひろお
寒川 広夫
所属クラブ：御坊RC
職業分類：電気事業
生年月日：1954年9月7日



あおしま かずき
青島 和輝
所属クラブ：橋本紀ノ川RC
職業分類：薬局経営
生年月日：1975年8月10日



くらはし としのり
倉橋 利徳
所属クラブ：海南東RC
職業分類：消化器内科
生年月日：1967年3月3日



まえだ かつひと
前田 克仁
所属クラブ：海南東RC
職業分類：ロープ製造
生年月日：1967年9月23日



みのしま としかず
箕嶋 利一
所属クラブ：海南東RC
職業分類：建築業
生年月日：1965年4月18日



たおか いくとし
田岡 郁敏
所属クラブ：海南東RC
職業分類：歯科医
生年月日：1961年12月16日



あがた しょうへい
縣 尚平
所属クラブ：貝塚RC
職業分類：写真スタジオ
生年月日：1946年12月16日



やすもと てるまさ
安本 照正
所属クラブ：河内長野RC
職業分類：幼稚園
生年月日：1973年11月17日



やまぐち しろう
山口 史朗
所属クラブ：河内長野RC
職業分類：建築板金
生年月日：1949年7月22日



わだ たけし
和田 健志
所属クラブ：岸和田東RC
職業分類：整形外科
生年月日：1953年2月2日



たけもと まさひこ
竹本 雅彦
所属クラブ：岸和田東RC
職業分類：消化器外科
生年月日：1951年9月21日

1 月



い が き てつ や
居垣 徹哉
 所属クラブ：粉河RC
 職業分類：果樹栽培
 生年月日：1945年9月23日



ふ じ た あつひさ
藤田 敦久
 所属クラブ：粉河RC
 職業分類：運送業
 生年月日：1953年10月17日



み な み けいいち
南 慶一
 所属クラブ：串本RC
 職業分類：アニーズメント
 生年月日：1945年2月1日



か と う やすたか
加藤 康高
 所属クラブ：那智勝浦RC
 職業分類：観光事業
 生年月日：1969年12月17日



お お う ら てつ や
大浦 哲哉
 所属クラブ：堺RC
 職業分類：証券業
 生年月日：1965年10月24日



こ ば や し しょうすけ
小林 章介
 所属クラブ：堺RC
 職業分類：梱包資材販売
 生年月日：1943年1月1日



ま さ き しょう
正木 正
 所属クラブ：堺北RC
 職業分類：美術館
 生年月日：1928年6月25日



て ら わ き しげる
寺脇 茂
 所属クラブ：堺おおいずみRC
 職業分類：不動産仲介業
 生年月日：1949年3月1日



か し わ ぎ としお
柏木 壽夫
 所属クラブ：田辺RC
 職業分類：食料品販売
 生年月日：1956年11月12日



と よ だ よしろう
豊田 圭郎
 所属クラブ：富田林RC
 職業分類：縫製業
 生年月日：1938年4月16日



ふ じ い みきお
藤井 幹雄
 所属クラブ：和歌山RC
 職業分類：弁護士
 生年月日：1960年11月4日



ふ る か わ たづみ
古川 多津美
 所属クラブ：和歌山東南RC
 職業分類：障害者支援施設
 生年月日：1949年8月25日



訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます



きむら ゆきお
木村 幸夫様 (羽曳野RC)

2010年1月11日死去
在籍期間：36年7ヶ月
職業分類：住宅建築
ポールハリスフェロー：PHF
米山功労者：米山功労者マルチプル
生年月日：1921年4月20日



あらかき つねじ
荒木 恒治様 (堺RC)

2010年1月22日死去
在籍期間：32年
職業分類：医学教育
ポールハリスフェロー：
マルチプルポールハリスフェロー 1
米山功労者：米山功労者 4
生年月日：1929年11月20日



わさ まさひこ
和佐 昌彦様 (田辺はまゆうRC)

2010年1月10日死去
在籍期間：12年8ヶ月
職業分類：米穀商
ポールハリスフェロー：
ポールハリス (累計 1,000 ドル)
生年月日：1956年3月7日



Paul Harris Fellow

PHF・ベネファクター（1月分）

お名前	回数	クラブ名	お名前	回数	クラブ名
戸田 龍吾	2	有田南	小西 貢	2	堺北
児島 誠一	4	有田南	坂田 兼則	2	堺北
椿本 雅宥	1	藤井寺しゅら	久保 善見		堺中
福井 康雄		橋本紀ノ川	宮武 勲	1	大阪金剛
深阪 好孝	6	和泉南	野上 浩實		泉南
坂口 陸夫	3	和泉南	片木 哲男	BE	泉南
阪口 吉男	2	和泉南	奥野 禎	2	高石
石田 安宏	1	和泉南	北嶋 文男	1	高師浜
川崎 晃生	1	貝塚コスモス	村上 有司	50	田辺
清原 定太郎	2	貝塚コスモス	堀 邦雄	2	和歌山城南
南 宗久	4	貝塚コスモス	森 桂子	1	和歌山城南
西上 茂樹	2	貝塚コスモス	龍神 正彦	1	和歌山城南
小川 千恵	1	貝塚コスモス	金谷 晴夫		和歌山北
石本 喜和男		岸和田	宮本 明彦		和歌山北
櫻井 新嗣		岸和田	渡辺 勝年		和歌山北
山形 直道		岸和田	田中 弘	1	和歌山北
櫻井 昇	4	岸和田	瀧本 幹之	BE	和歌山南
西浦 能兼	2	松原			



米 山 功 労 者 (1月分)

お名前	回数	クラブ名	お名前	回数	クラブ名
三軒 久義	6	河内長野東	中芝 康順	1	和歌山城南
濱口 正義	29	堺西	大桑 埴嗣	7	和歌山城南
三村 文男	4	堺フェニックス	山東 秀樹	2	和歌山城南
田中 眞琴	5	堺フェニックス	浦口 英尚	1	和歌山城南
嶋田 典之	6	高石	窪田 暁	4	和歌山南
柴山 俊彦	4	高石	利光 慎二	3	和歌山西
河野 正文	4	和歌山城南			





第9回「ロータリーの友」地区だより(3月号)

3月になると急に暖かくなって来た様な気がします。地区大会も近付き 4月17日・18日には白浜・田辺で皆様とお会い出来るのを楽しみにしています。3月は識字率向上月間となっています。



是非お目通し頂きたい記事

☆ 横組

○RI会長メッセージ…………… 1頁

国際大会に参加しましょうと云うテーマで6月20日～23日カナダケベック州モンリオールで開催される国際大会をPRされています。

「私は皆さん方にモンリオールに集い、この機会を利用して新しい奉仕の仲間を見つけたり、一歩進んだプロジェクトのアイデアを得たりしながら、ロータリーへの熱意を一層新たにされるようお勧めします」と説いておられます。

○識字率を上げ日々を豊かに 一特集、識字率向上月間…………… 5～9頁

識字率向上の為の所沢西RC・富山みらいRC・不破の関RC・山口南RC・米沢中央RCの取組みを特集してあります。

○未来を見つめるローターアクト……………10～13頁

3月8～14日は「世界ローターアクト週間」です。各地区におけるローターアクトのメンバーの活発な活動、頼もしい限りです。

○日本初 川越ローターアクトクラブ 第2570地区アクト委員会委員 石川 昇…………… 14～16頁

わが国第1号のローターアクトクラブとして川越ローターアクトクラブは1968年誕生しました。「障害をもつ社会的弱者に手を差し伸べよう」という活動プログラムのもと障害者の順応性を高め、社会参加の意欲と能力の向上を図っています。

一方、川越星野女子高校IACは45年の歴史を誇り、現在部員二百余人の多きを擁するという事です。

「IAC・RACとも地域社会のニーズに取り組み、二度とない青春時代に社会に貢献するという貴重な体験は個人の人格形成の上で大きな力になると確信する」と述べています。

○Ray of Hope 希望の光…………… 17～21頁

レイ・クリンギンスミスRI会長エレクトへのインタビューを掲載してあります。テーマの「地域を育み、大陸をつなぐ」の意味はロータリアンではない人にもロータリーが行なっていることについて知ってもらい、同時に自分たちがしている活動の重要性をロータリアンに確認してもらう事をねらったテーマであるとの事です。

○ゴールまであと数インチ ……最後の押しを！…………… 26～29頁

インドでのNID（全国予防接種日）参加のレポートを掲載しています。「私たちの投与したワクチンが子供たちの未来を確かなものにする。人口急増、貧富の差拡大のインドでのポリオ撲滅は容易ではありませんが、対岸の火事として見過ごすわけにはいきません」としています。

村上有司2640地区ガバナーも投与した感激をしみじみと語っておられました。

○国際ロータリーの規則を決める規定審議会…………… 36頁

ロータリーの国会とも云うべき規定審議会は今年4月に開催されます。規定審議会のルール、規則は民主的に変更されています。3年に1回の規定審議会、今回はどのようなことが決まるのでしょうか。

☆ 縦組

○**転ばぬ先の杖と知恵** 東京大学教育学部長 武藤 芳照 ……2～6 頁
転倒予防7ヵ条を述べています。第一「歳々年々同じからず」第二「転倒は結果」第三「片脚立ちを意識する」第四「転ばぬ先の杖」第五「無理なく楽しく30年」第六「年寄りに冷や水」第七「転んでも起きればいいや」
結論として、「からだを動かし、心を動かしていつまでもすこやかに実りある日々を送るよう
にみんなで努力したい」と結んでいます。

○**手に手 くらぶ探訪**
上品で風味のよい 高田ロータリークラブ ……7～17 頁
「雪の高田」と言われる上越市高田はスキー発祥の地という事ですが、高田の街や高田RC
のメンバーを紹介してあります。家業を継いでロータリアンとして2代目・3代目が多い
る伝統あるクラブという事です。

○**卓話の泉** ……12～13 頁
気をつけたい目の病気 和歌山東RC 黒田 純一

○**俳壇** ……14～15 頁
「寒鰯の生きて糶らるる夜明けかな」 和歌山・御坊 橋本 順子
「寒椿ふればはかなき人の頬」 和歌山・御坊 田端 静代
「生きてまだときめく心白障子」 和歌山・御坊 中野 賢一
「水仙や菩薩への道埋めつくす」 和歌山・御坊 上西 好子

○**歌壇** ……14～15 頁
「フルートの先生今はロータリアン例会毎に楽しき笛の音」
大阪・堺東 竹山 時和

○**柳壇** ……14～15 頁
「幸せは集まる人の顔にあり」 大阪・堺 大澤 徳平
「鈍行で疲れて帰る塔巡り」 大阪・堺 松谷 湖塔

○**ロータリーアットワーク ROTARY AT WORK 写真編** ……23～29 頁
防災スタンプラリー 堺おおいずみRC ……26 頁
タイでのWCS 美原・堺北・河内長野東RC ……27 頁

○**ロータリーアットワーク ROTARY AT WORK 文章編** ……30～35 頁
園児による「歌・踊・奏」発表会 河内長野東RC ……31 頁

○**表紙のメッセージ**
本年度は祭をテーマとして表紙の写真を掲載してありますが、隠岐の御霊祭、尾張国府官
の裸祭両者とも勇壮な日本の祭を力強く表現してあります。

「ロータリーの友」地区委員 廣本喜亮(田辺RC)
E-mail:hiromoto1026@ybb.ne.jp
TEL:0739-22-0571 FAX:0739-26-7307



ロータリーの友 創刊号 (1953年1月号)
1952年7月、日本のロータリーが2地区に分割
されました。
分割後も、お互いのことを知っていたいという
思いがあり、両地区に共通の雑誌の発行が決ま
りました。創刊号は横組みでした。

ロータリーの友事務所
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル4階
TEL 03-3436-6651 FAX 03-3436-5956
編集部メール hensyu@rotary-no-tomo.jp

ハイライトよねやま 120号

(財) ロータリー米山記念奨学会ニュース



今月のトピックス

2010年2月12日発行

1. 寄付金速報 — 下半期も厳しいスタート —
2. 4月からの新奨学生が決定！
3. 台湾の学友が「総統科学賞」を受賞！
4. PETSではDVDを使って米山奨学事業のアピールを！
5. 中国経済専門家・米山学友の柯隆さんが東京RCで卓話

【お知らせ】

■中国学友会総会・懇親会 in 上海 ご案内ページをHPに掲載しました！

2010年7月17日(土)、上海で開催される中国学友会総会・懇親会にぜひご参加ください！

万博史上最大規模といわれる上海万博への訪問と合わせ、中国の学友たちとの交流を深めませんか？中国の学友たちの活躍をその目で見、彼らの思いを直接聞くチャンスです！詳しくはこちら↓↓↓

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/sp-info/index.html>

■寄付金速報 — 下半期も厳しいスタート —

1月までの寄付金は、前年同期と比べて14.5%減、約1億7千万円の減少となりました。普通寄付金が1.9%減、特別寄付金が20.7%減と相変わらず厳しい状態には変わりありません。

1月は主に普通寄付金が納入される月であり、全クラブの81%にあたる1,864クラブからご納入いただきましたが、納入率が60%台にとどまっているところも2地区あります。多地区合同奉仕活動として日本の全34地区が参加している米山奨学事業のご理解を深めて頂き、普通寄付金のご送金をよろしくお願い申し上げます。



「ハイライトよねやま」は、毎月1回発行しているロータリー米山記念奨学会のニュースレターです。

文庫通信 (270号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご利用願います。以下資料のご紹介を致します。

ロータリー理解推進のために

- ◎ ポール・ハリスの生涯とロータリーの精神 牧田静二
D.2620 月信 2009 7P
- ◎ ロータリーについて考えていること 高野孫左エ門
D.2620 月信 2009 3P
- ◎ ロータリーの綱領 ロータリーの目的に変えよう 改訳試案 廣畑富雄
ロータリーの心と原点 2009 4P
- ◎ 職業奉仕の一考察 中村博亘 D.2790 月信 2010 2P
- ◎ ロータリーにおけるリーダーシップ 深川純一 伊丹 R.C.
(純ちゃんのコーナーPartVIII) 2009 2P
- ◎ ロータリー理解推進月間に因んで 渡辺治夫 D.2780 月信 2010 1P
- ◎ 楽しさあってこそそのロータリー 齋藤直美 原点回帰 2009 5P
- ◎ 2月はロータリー理解推進月間です 山崎勝 D.2720 月信 2010 2P

[上記申込先：ロータリー文庫 (コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011

東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3階 TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506

<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

開館＝午前10時～午後5時

休館＝土・日・祝祭日



■ 国際ロータリーニュース

地道な努力が実り新クラブが誕生

国際ロータリー・ニュース：2010年2月22日

ロータリー・クラブの結成を目指していた一部のロータリアンの努力が功を奏し、米国ノースカロライナ州の小さな町、トラウトマンに新クラブが誕生しました。

2月12日、会員28人、ゲスト、地区役員が特別夕食会を開き、昨年10月に承認された新クラブの加盟を祝いました。また夕食会では、ポリオ撲滅活動への支援としてロータリー財団に1,000ドルの寄付が贈られました。



「地元の人々は、ロータリーの誕生を大変喜んでいます」と、トラウトマン・ロータリー・クラブをスポンサーしたトップ・オブ・ザ・レイク・ムーアズビル・ロータリー・クラブの会員、デボラ・ボーウェンさんは説明します。「トラウトマンは古い町で、事業もあまり盛んではありませんが、人々はロータリーを温かく迎えています」

ボーウェンさんとご主人がムーアズビルから北16キロの位置にあるトラウトマンに事務所を移した直後、ボーウェンさんは地区ガバナーから任命を受けて、人口2,100人の町に新クラブを結成するために奔走することとなりました。

トラウトマン周辺19キロ以内に既に6つのクラブがありましたが、ボーウェンさんと一部の住民はトラウトマンにも独自のクラブを結成できると確信していました。そこで、ボーウェンさんは自分のクラブの会員2人の支援を得て、8人の会員候補者を集め、2008年10月から会合を開くようになりました。

「広報担当チームをつくり、『人類のために活動します：あなたもロータリーと始めませんか』の広告を活用したビラをつくりました」と振り返るボーウェンさん。チームはまた、町の掲示板に広告を貼り、地元で活発に活動している人々の勧誘を地道に行いました。

クラブの成長を助けるには最後までやり通すことが肝心と話すボーウェンさん。「電話をかけるだけではなく、フォローアップが必要です」

ボーウェンさんは、会員について仮クラブ会員に毎日考えてもらうために、あるアイデアを思いつきました。それは、彼らが見つけ出した会員候補者を象徴する3本の棒の入った花瓶を各会員の机に置き、新会員が入会したらその棒に花の形のステッカーを貼るというものです。

12月、トラウトマン・ロータリー・クラブは、町内にある4校のうちの1校で募金行事を開催し、恵まれない70人の子供たちに贈るギフトカードを購入するために8,000ドル以上を集めました。

経済不況が自身の事業や地域社会全体に影響を与える中でも、新加盟したクラブに高い期待を抱いているというボーウェンさん。「苦しい時期を経験することもあるかもしれませんが、ロータリーへの献身はこれからも変わりません」。

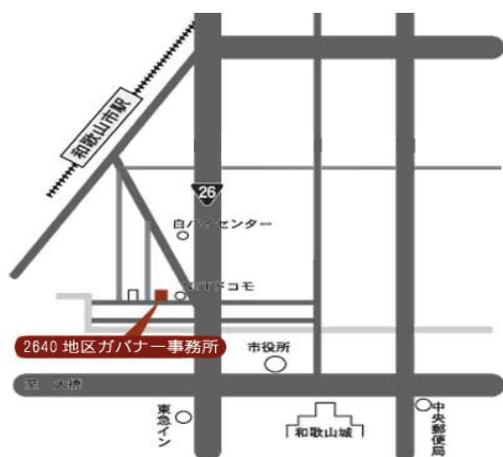
第2640地区 出席報告 (2010年1月)

クラブ名	会員数		入会		退会		例会数	1月出席率	平均出席率	クラブ名	会員数		入会		退会		例会数	1月出席率	平均出席率
	08.7.1	1月末	1月	累計	1月	累計					08.7.1	1月末	1月	累計	1月	累計			
有 田	37	37	0	0	0	0	4	92.71	88.76	大 阪 金 剛	31	29	0	0	0	2	3	87.37	88.55
有 田 南	30	32	0	2	0	0	3	98.81	96.77	大 阪 狭 山	5	5	0	0	0	0	3	80.00	90.00
有 田 2000	14	15	2	2	0	1	4	91.67	90.09	りんくう泉佐野	27	27	0	0	0	0	3	77.59	76.52
藤井寺しゅら	15	15	0	0	0	0	4	91.70	96.20	堺	77	78	2	5	1	4	3	90.00	85.34
御 坊	52	51	2	2	0	3	4	87.74	87.25	堺 東	33	34	0	1	0	0	4	98.39	98.07
御 坊 東	18	17	0	0	0	1	4	94.13	85.87	堺 北 西 南 西	19	19	0	0	0	0	3	83.33	77.39
御 坊 南	26	27	0	3	0	2	4	92.31	88.01	堺 泉 ケ 丘	21	21	0	0	0	0	4	94.05	96.34
羽 曳 野	26	20	0	3	1	9	3	87.52	91.92	堺 北	31	31	1	2	0	2	4	82.75	81.69
羽 衣	22	20	0	0	0	2	4	78.75	84.13	堺 南	28	27	0	1	0	2	3	92.42	82.97
阪 南	13	13	0	0	0	0	4	100	98.90	堺 中	25	20	0	0	0	5	4	69.73	70.00
橋 本	50	53	0	4	0	1	4	88.02	93.06	堺 西	17	19	0	2	0	0	3	93.75	89.13
橋本紀ノ川	17	17	1	1	1	1	3	63.89	86.15	堺おおいずみ	31	32	1	1	0	0	4	82.51	87.08
岩 出	27	28	0	1	0	0	4	88.40	91.89	堺フェニクス	25	30	0	5	0	0	3	80.66	82.36
和 泉	37	35	0	0	0	2	4	83.00	78.56	堺 清 陵	20	20	0	0	0	0	4	85.00	87.56
和 泉 南	31	28	0	0	0	3	4	62.83	61.35	堺 東 南	12	12	0	0	0	0	4	100	99.21
泉 大 津	47	50	0	3	0	0	4	81.82	78.30	泉 南	18	18	0	1	0	1	4	87.50	84.10
泉 佐 野	30	32	0	3	0	1	3	92.59	93.37	新 宮	59	59	0	2	0	2	4	75.01	80.37
海 南	42	42	0	0	0	0	4	74.36	73.01	白 浜	12	14	0	2	0	0	3	97.62	97.22
海 南 東	64	69	4	7	0	2	3	80.19	81.27	忠 岡	12	11	0	0	0	1	3	53.33	49.85
海 南 西	22	22	0	0	0	0	4	87.95	87.27	太 子	11	13	0	2	0	0	3	72.20	77.70
貝 塚	17	17	1	1	0	1	3	100	100	高 石	26	27	0	1	0	0	3	69.01	75.37
貝塚コスモス	20	20	0	0	0	0	3	94.83	93.06	高 師 浜	18	19	0	1	0	0	4	80.88	82.84
関西国際空港	23	25	0	2	0	0	3	78.67	79.21	田 辺	85	88	1	4	0	1	4	87.69	87.84
河 内 長 野	30	35	3	5	0	0	4	76.40	80.90	田 辺 は ま ゆ う	30	31	0	4	0	3	3	91.40	89.59
河 内 長 野 東	30	27	0	0	0	3	4	96.59	94.23	田 辺 東	48	48	0	3	0	3	3	88.74	92.52
岸 和 田	44	41	0	0	0	3	4	88.20	87.88	富 田 林	32	34	1	2	0	0	4	78.53	75.94
岸 和 田 東	54	56	2	3	0	1	4	94.90	92.56	富 田 林 南	20	19	0	0	0	1	4	75.00	74.50
岸 和 田 北	22	18	0	0	0	4	4	100	100	和 歌 山	66	70	1	8	2	4	3	90.55	85.24
岸 和 田 南	19	21	0	2	0	0	3	92.06	90.13	和 歌 山 アゼリア	43	44	0	2	0	1	3	83.33	81.99
粉 河	19	21	2	2	0	0	4	98.61	97.64	和 歌 山 東	53	50	0	1	0	4	4	89.48	91.35
高 野 山	23	24	0	1	0	0	4	96.00	96.67	和 歌 山 城 南	39	38	0	1	0	2	4	96.21	92.35
串 本	11	12	1	1	0	0	4	75.48	73.49	和 歌 山 北	45	51	0	7	0	1	3	82.61	80.94
松 原	35	36	0	1	0	0	4	86.96	84.06	和 歌 山 南	89	89	0	3	0	3	4	78.95	85.63
松 原 中	24	23	0	0	0	1	4	83.69	85.48	和 歌 山 中	29	29	0	0	0	0	4	95.24	83.82
美 原	24	26	0	2	0	0	4	93.50	94.40	和 歌 山 西	21	21	0	0	0	0	4	95.00	95.00
那 智 勝 浦	19	21	1	2	0	0	4	80.00	70.11	和 歌 山 東 南	41	46	1	6	0	1	4	88.56	90.97

クラブ	7月1日クラブ会員数				1月末クラブ会員数				1月平均出席率	入会		退会	
	男性	2100	女性	133	男性	2126	女性	143		1月	累計	1月	累計
72	2233				2269				86.23	27	120	5	84

3月の行事予定表(識字率向上月間)

1日	(月)	第2回地区WCS海外視察打合せ会議	ガバナー事務所
2日	(火)		
3日	(水)		
4日	(木)		
5日	(金)		
6日	(土)	第4回諮問委員会	ホテルグランヴィア和歌山(未定)
7日	(日)	第2回PETS会長エレクトセミナー	全日空ゲートタワーホテル
8日	(月)		
9日	(火)		
10日	(水)		
11日	(木)		
12日	(金)		
13日	(土)	第5回ライラキーマン会議	田辺
14日	(日)	クラブ青少年交換委員長会議	職業研修センター
15日	(月)		
16日	(火)		
17日	(水)		
18日	(木)		
19日	(金)		
20日	(土)	第4回財団奨学生オリエンテーション ライラセミナー	和歌山JAビル 田辺市元島館
21日	(日)	↓ ローターアクト・インターアクト・財団・米山新世代交流会	↓
22日	(月)	↓	↓
23日	(火)		
24日	(水)		
25日	(木)		
26日	(金)		
27日	(土)	和泉南RC創立25周年記念式典	和泉中央シティプラザ 弥生の風ホール
28日	(日)		
29日	(月)		
30日	(火)		
31日	(水)		



国際ロータリー第2640地区 ガバナー事務所のご案内

〒640-8215 和歌山市橋丁 23

サイバーリンクス N-4 ビル 2F

T E L (073) 428-2640

F A X (073) 428-2643

E-mail info@rid2640g.org

U R L <http://www.rid2640g.org/murakami/>

勤務時間 9:00~17:00 (土・日・祝日は休み)